

## D— 8 幼児の快適着衣重量について

広大福山分校 ○瀬之ロスマ  
阿部 睦代

1. 瀬戸内海沿岸地域における幼児の快適着衣基準を得んとして、その着衣重量の実態を調査検討した。

2. 昭和41年7月より42年12月に至る間、毎月1回福山市の3歳児1270名、4歳児55名計1325名について、その着衣全量を上着、下着、付属品にわけて秤量し、同時に体重、身長を測定した。服種、材質等については調査票に記入集計を行なった。測定を行なった日とその月の平均気温は、松永測候所で資料を得た。

3. 1. 福山市における年間平均気温は3~28°Cで、3歳児の着衣重量は年間を通じ、平均男147~1114g、女107~1086gであった。2. 着衣重量において男子が女子より厚着の傾向を示し、男女とも8月に最小、2月に最大値を示した。個人差は夏季より冬季に大で、男子に著明な差がみられた。3. 衣服形態は夏季に半ズボン型とワンピース型と男女の区別が明確であるが、冬季には男女とも長ズボン型となる。着衣重量における男女差は季節による衣服形態の異なることによるものと思われる。

4. 着用枚数は男子が女子より多いが、枚数と着衣重量との間には相関関係はない。5. 衣重比は男女とも2月に最大となり、8月に最小であった。6. 一般に発育良好な3歳児の衣重比は、不良な場合より小さい傾向がみられた。その他気温の変化に対する着衣重量の増減等についても検討を行なった。